深場から釣り上げ、潜れなくなってしまった魚のリリース方法

Releasing Fish That Went Belly-Up

文責：JGFA釣魚保全委員会

JGFAのスローガン『いい釣りをいつまでも。』は、言い換えるなら、質の高い魚釣りをずっと続けていけるよう、皆で力を合わせましょうということです。その実現のためのツールとしての「キャッチ&リリース」は、釣魚の保全に不可欠な常識となっています。

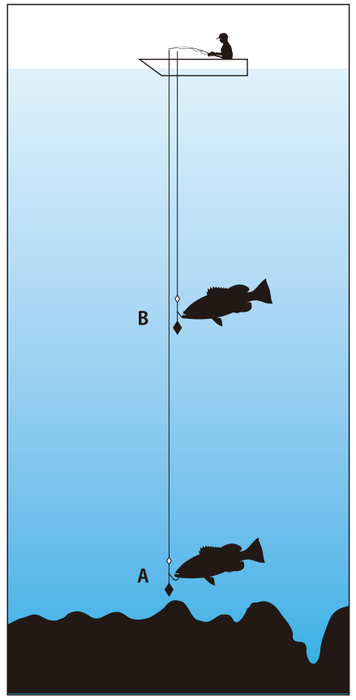
深場から引き上げてきた結果、水圧の変化のせいで口から胃が飛び出したり、目玉が飛び出してしまった魚たちは、一見すれば多くの方がリリース不可能だと感じられるかもしれません。彼らは自力で潜っていくことすらできないかもしれません。しかし、水圧がかかりはじめる一定の水深まで沈めてからリリースすれば、生存が十分可能だということも今や実証されています。市場では、リリースツールが販売されています。それぞれ特徴のある専用ツールは高い性能を示し、魚種やサイズ等、アングラーの用途や考え方に応じて使い分けることもでき、潜れなくなってしまった魚のリリースが誰にでも可能なのです。今回は、具体的な方法をご紹介しましょう。

【リリースする水深の目安】

「いったいどれ程の水深から釣った魚たちに、こうした配慮を図ればよいのでしょうか？」ごもっともな質問です。目安としては15m以上ある水深の釣り場で釣りあげた魚たちには、こうした気使いが必要だと思われます。

【リリースの実際】

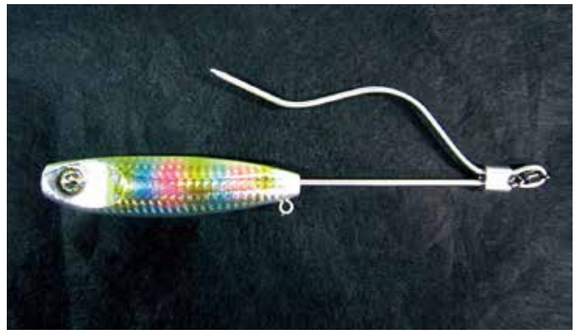
まったく難しく考える必要はありません。『リリースツール』を使ってハリがかりした水深まで沈めることが最高です。しかし近年の研究では、その魚をハリがかりさせた水深の半分まで沈めることで十分リリースできるという調査結果も出ています。各種のリリースツールにPEライン（4号以上が目安）をセットし、フックをリリースする魚の口にかけ、ツールあるいはオモリの重さで魚を一定の水深まで一気に沈めます。魚が帰っていける水深に到達したなら、アワセを入れる要領で竿をしゃくるか、直接ラインを引っ張れば、ゲイプに結んだ糸が引かれることにより針が魚の口から外れ、魚をリリースすることができるのです。



釣った水深Aまで沈めるのが理想だが、近年の研究ではハリがかりさせた水深の半分Bまで沈めることでOKという結果も出ている。

【市販されているリリース用品】

ガイドサービスセブン［海士リリーサー］



●品名：海士リリーサー
●規格およびサイズ（全長）：20cm　シンカー重量：300g
●適応魚種とサイズ（全長か重量）：70cm/5kg　価格：￥1,500（税抜）（2018年現在）

●問い合わせ先：（株）ガイドサービスセブン
●ホームページ：http://sevenslide.jp/contact/

■メーカーのコメント

魚のエラに直接通して海に帰します（エラを傷つけないように）。注意点としてオモリ部分を下に向けるようにして水に沈めます。魚が大きくシンカー不足の場合は、シンカーについた穴に他のナス型オモリ等を追加して沈めるようにしてください。沈める深さについては、釣り場の水深の半分程度を目安とし、100mであれば50mほど沈めれば大丈夫です。魚探で沈む様子を確認すると、放された魚が自力で海底に戻る様子を見ることができます。実際の現場でも多くの魚がリリースにより生き残っております。低価格でもあり、自作も可能ですのでぜひともご利用くださいませ。どのリリース商品でも人間の減圧症と同じく、魚を船に上げてから海中に戻すまでの時間が魚の生死を分けます。1秒でも早くスムーズに海に帰してあげてください。

ディープライナー［リリースジグ・スピンドル］

●品名：リリースジグスピンドル
●規格およびサイズ（全長）：200mm　●シンカー重量：500g
●適応魚種とサイズ（全長か重量）：オフショアジギング対象魚全般～5kg対象
（シンカーウエイトの10倍までの魚を推奨）。
さらに大型の魚の場合はウエイト追加により対応可能です。
●価格：¥5,000（税抜）（2018年現在）

●問い合わせ先：
DEEPLINER正規取扱店 http://www.deepliner.com/labs/shop/shop
株式会社ディーパース・ファクトリー
http://www.deepliner.com/labs/releasejig_spindle.html
水中動画 https://youtu.be/IztDxL6sOos

■メーカーのコメント
ラインの先にリリースジグを取り付け、大きなフックを魚の口に刺し、海に落とします。水中に沈めた魚がバタバタと暴れ始めたり、泳ぎ始めて沈降速度が遅くなったりすれば、釣り上げられてショック状態だった魚が泳ぐ力を取り戻した合図です。このときにリールのクラッチを入れ、軽くロッドを上げればフックが外れリリース作業は完了します。リリースの際は絶対にエラを傷つけないようにしてください。フックを刺す際は可能な限り上顎に刺してください。下あごに刺す場合、顎関節が外れる場合がありますので要注意！慎重に！

■メーカーの実証例
そもそも深場から釣り上げた目玉の飛び出した魚などは本当に長期間生存できるのか、という疑問を持っている方がまだまだ多いのではないかと思いますので、以下の記事をご覧いただき、何らかの形でアングラーの皆さんにリリースの行為に自信を持っていただけたらと願っております。

◎キャプテンズ沖縄 ブログ記事
http://zenkaimarusakura.ti-da.net/e7756317.html
◎キャプテンズ沖縄 facebook記事
https://www.facebook.com/permalink.php?story_fbid=1871343289756863&id=1741788839378976
◎赤侍さんブログ記事
http://akasamurai.com/archives/158

シーフロアコントロール［エコリリーサー］

■メーカーのコメント
スプリットリングを使用し、リリーサー本体にラインを接続。本体下部（ラバーキャップ側）にジグ又はオモリ（450g程度）つけます。本体を左右から握り、フック部を開き、魚の下唇を挟みます。ゆっくりと持ち上げ、水面から最低でも30m程まで沈めます。（1.5kgを超える魚の場合は、手を使って水面までゆっくり降ろして下さい。）目標の水深に達し、竿を1～2回しゃくると魚がリリースされます。
注意：捕獲水深よりも深い位置には沈めないでください。リリース時のライン切断防止の為、ご使用の際は必ずスプリットリングを使用し、本体へ接続してください。（スプリットリング及びオモリは別売りとなります。）

●品名：SFC Eco Releaser
●規格およびサイズ(全長)：190mm　●シンカー重量：450g程度
●適応魚種とサイズ(全長か重量)：オフショアで釣れる魚種全般
（大型魚や水深が深い場合は、シンカーを重くして対応可能です。）
●価格：¥5,184（税込）（2018年現在）

●問い合わせ先：株式会社シーフロアコントロール
●ホームページ：http://seafloor-control.com

JUSTICE［リリーサー ノリノフ］

■メーカーのコメント
これは今までのリリーサーと違い、リリースした後にそのまま釣りを続けられるアイテムになっております。ジギングの場合でもリーダーの先にリリーサーを付け、その先にリーダー・ジグを付ければ、リリースしてそのまま釣りができます。リリースという行為が根付き難いのは、釣りを中断しリリースをしなければならないからだと思います。お金を払い船に乗るのに、釣りする時間を削ってわざわざリリースをする人がはたしてどれほどいるのだろうか？だったらリリースも釣りも同時にできたらいいんじゃないか？と思い形にしました。オフショアフィッシング専用のリリーサーです。

■ルアーフィッシングの場合（メーカーより）
リリーサーの上部スイベルにリーダーを付け、下部スイベルにスプリットリングやスナップ等を介し、魚に見合った重量のジグやオモリを付けます。
魚の上唇の薄皮部分にリリーサーの針先を刺し、上部の膨らみまでスライドさせます。
1kg未満までの魚ならそのままリーダーを持ち上げても魚は固定されておりますが、それ以上の魚の場合は、リリーサー下部から持ち上げて下さい。
魚を優しく海面まで降ろし、任意の水深まで沈めたらロッド（竿）を大きくシャクって下さい。

■餌釣り・リリース後にそのまま釣りを続ける場合（メーカーより）
仕掛け下部のスナップにリリーサー上部のスイベルを付け、リリーサー下部のスナップにオモリを付けます。この状態で普通に釣りをして下さい。
目玉や浮袋が膨らんだ状態の持ち帰らない魚が釣れたら、一旦魚をバケツに入れ活かしておきます。
落ち着いたところでバケツの魚を取り出し、魚の上唇の薄皮部分にリリーサーの針先を刺し、上部の膨らみまでスライドさせます。魚を優しく海面まで降ろし、任意の水深まで沈めたらコマセを撒く要領で竿を大きくシャクって下さい。魚は簡単に外れますので、そのまま釣りが続けられます。

●品名：ジャスティス リリーサー ノリノフ
●規格サイズ：現在Sサイズのみ、全長103mm(アイからアイまで)
●シンカー重量：魚種に合わせたジグやオモリを任意で付けて下さい。
●適応魚種とサイズ(全長か重量)：3kg程度までの根魚、1.5kg程度までの青物等。
●価格：¥800（税別）（2018年現在）
●問合せ先：村瀬清之https://www.facebook.com/people/%E6%9D%91%E7%80%AC%E6%B8%85%E4%B9%8B/100009696946923
●メールアドレスkey.justice@icloud.com

シークアライザー［The SeaQualizer］

■メーカーのコメント
SEAQUALIZERは深場から釣り上げた魚を再び圧力がかかる水深まで戻して、自動的に魚をリリースするためのツールです。魚をリリースする水深は3段階（50ft/15m、100ft/30m、150ft/45m）に調節することが可能となっています。釣り上げた魚は生息していた水深の1/3 から1/2 の深さまで戻すことによって、安全で十分な再加圧を与えることができると言われています。

●品名：SEAQUALIZER
●規格およびサイズ(全長)：SQL 50-100-150 Regular SEAQUALIZER
(Depth 50-100-150 feet)
●シンカー重量：魚を沈めるためのウエイトは魚の大きさによって異なりますが、魚体サイズに応じて、50号～300号を適宜使い分けてください。
●価格：¥12,800（税別）（2018年現在）

●問い合わせ先：有限会社サムテック　TEL : 03-3799-7336
●ホームページ　http://www.samtech-japan.com

【リリースツールを自作する】

以上ご紹介した数種の市販のリリーサーでは対応しきれない大型魚(およそ15kg以上)については、時には数kgにも及ぶ大型のウエイトが必要となり、現時点ではフックとオモリを使って自作するしか選択肢がありません。大型のハタ類やカンパチ等をリリース前提で狙う場合は、あらかじめ適正サイズのリリースツールを用意する必要があるでしょう。

自作の際にはまず、オモリ(基本は重量300g以上、魚の大きさによっては更に重い物が必要です)にシングルバーブレスフック(基本は6/0以上のフック)をセットします。そしてフックのゲイプ部分(フトコロ)に直接PEラインを結べば完成です。しっかりと丈夫に作ってください(オモリは交換可能ですので、場面によって重量を変えて使用できます。)

■自作でできるリリースツール

自作したリリースツール。オモリは沈める水深、魚の大きさによって変えることで対応できます。フックとオモリの接続にはスナップスイベルをご使用ください。

もう一歩先のリリースのために

もう一歩先に進んで「リリースする魚の生存率」をさらに高めていく方法を考えましょう。釣り上げた魚を極力ダメージ少なくリリースするための方法を考え、学んでください。生き物相手ですので丁寧に扱おうとした結果、逆に大暴れして傷つけてしまうこともありえます。しかし魚の習性を学び、どう扱えばどうなるか、予測を立てた上で、最善を尽くすことです。

つまりは「リリースまで考えてから釣りを開始する」これです。ショアからの釣りならどこでかけて、どう誘導して、どのようにキャッチし、どうリリースするのか。ボートからの釣りでも基本は同じです。キャッチの際に水から上げるのか、上げないのか。例えば記念撮影や針外しのために水から上げるのなら、どう行えば素早く魚が弱る前にリリースできるのか。どのようなフックを使えばよりスムーズにリリースできるのか、すべてを想定し、必要なツールを揃えた上で釣りを開始することが重要です。

JGFAでは基本的キャッチ&リリースの実際を図にして皆さんにお伝えしています。

http://www.jgfa.or.jp/news/tr/p000946.html

明日の釣りのために、よりクリーンなリリースを学び、またよい方法を生み出してください。ゲームフィッシングの面白さは、ここにもあるのです。

さまざまなリリース補助用品

世界各国の心あるアングラーたちが経験で得たノウハウを元に開発した、さまざまなリリース補助用品があるのでご紹介します。正しくリリースすれば生きる可能性は高まります。

リリースツールを正しく使って行えば生き延びる可能性は広がります。ぜひ生存確率の高まる方法でのリリースを試して下さい。「いい釣りをいつまでも。」のために、これからの日本の釣りにはなくてはならないノウハウですので、ぜひこれらのツールを準備し、最高のリリース方法を習得してください。

■ランディングネット

ランディングネットも、さまざまな物が世の中に出回っています。魚のサイズに対し余裕のあるネットを使うこと、ネットの素材はラバーやラバーコーディングの物を選ぶこと、網目の細かい物を選ぶことなどにより、魚体へのダメージ低減がはかれます。

■フィッシュグリップ

ボガグリップなどのフィッシュグリップで魚の下顎を挟み、吊り下げるようにして魚を保持することで、針外しからリリースまでの動作をより安全に、スムーズに行うことができます。不要に魚体に触れることも避けられるため、魚体へのダメージも抑えられます。ただし、サケ・マス類への使用は向きませんし、15kgを超える魚や魚種によってはフィッシュグリップにかけた状態で魚の全重量が下顎にかかることで、顎の骨が割れてしまったり、顎周りの関節に致命的なダメージを与えてしまったりすることもあります。大型魚や顎の弱い魚の場合は、フィッシュグリップだけで魚を持ち上げることは避け、もう一方の手で魚体を下から優しく支えてあげるようにしたり、魚を持ち上げる際の使用を避けることが望ましいです。

魚を掴む部分に角のない製品を選ぶことで、魚がフィッシュグリップにかけられた状態で不意に首を振った際に、不必要なダメージを与えないようにすることができます。また、体を回転させて暴れる魚に対しては、フィッシュグリップ自体が追従し回転するタイプを選ぶことでダメージの低減が得られます。
フィッシュグリップは本来、魚の下顎を掴み、吊り下げるようにして使う物ですが、残念ながら日本国内では写真撮影の際にフィッシュグリップに角度をつけて使い、魚を前に出して大きく映そうとする場面を目にします。

本来、吊り下げるツールを突き上げるようにして使ってしまうことで、魚の下顎周辺に大きなダメージを与えている可能性があります。リリース前提の魚に対しては、このようなフィッシュグリップの使い方は絶対に避けるべきでしょう。本来ならば魚体に優しいリリースを補佐するツールで、より大きなダメージを与えてしまうことは望ましくありません。

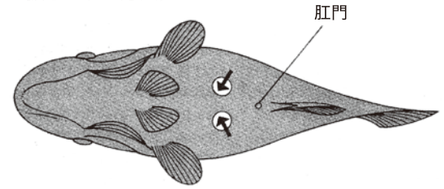
■エア抜きニードル

30m程度の水深の釣りでつり上げた魚の腹部にエアがたまり、元気ではあるものの潜って行けない魚たちに有効な手段の一つが、膨張したガスの抜き取りです。そのテクニックに必要なのがエア抜き用ニードルで、数社から発売されています。魚体に合わせてエア抜きニードルの太さを選びましょう。50〜70cm程度までの大きさの対象魚ならば細いニードルで問題ありませんが、それ以上の大型魚にはJGFAのダートタグS用ステンレスパイプ程度の太いものが必要な場合があります。適切な方法は右図を参照してください。

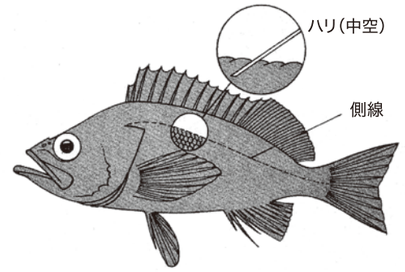
■プライヤー、ニッパー、ナイフ、ワイヤーカッター

安全かつ速やかに魚から針を外してリリースするには、プライヤー、ニッパー、ナイフ、ワイヤーカッター等のツールをすぐに使える場所に準備しておくことも重要です。

〈ガス抜きをする方法〉



ハタ類のガス抜きをするためには、魚体を裏返し、肛門のすこし前の腹部に皮下注射用のニードルを刺す。腹部をやさしく押してガスを抜き、手早くリリースしてやる



カサゴ類のガス抜きをするためには、ニードルをいくぶん頭の方に向け、側線よりもウロコ2枚ぶんほど腹寄りの位置、胸びれのすこし後ろに刺す。ニードルはウロコをめくった下に刺しこむこと

Original illustration: David McHose

オフショアの釣りでも、ラバーネットは役に立ちます。
カツオや小型マグロをリリースするときも、デッキに当てず、こすれによるダメージも最小限に抑えてフックを外すことができるでしょう